

[09\_9] 図書館情報 : 九州大学附属図書館月報 :  
9(9)

<https://doi.org/10.15017/18286>

---

出版情報 : 図書館情報. 9 (9), pp.51-56, 1973-09-25. 九州大学附属図書館  
バージョン :  
権利関係 :



## 私の別刷整理法

白水 隆

物理・化学や生物学の中での物理・化学的分野（例えば生理学、分子生物学など）で、別刷などの文献のあつかいを聞くと私どもには驚くことが多い。こういう分野では最近に発表された先端をゆく論文さえ見ておれば充分で、10年も前に発表された報文などは一顧だにする必要はないという。私の友人がアメリカのある生物学的研究室での別刷のあつかいを話してくれたが、この研究室では送られてきた論文別刷は開封して必要と認めた小数のもの以外は全部屑かごに直行することになるのだそうである。私のように生物学の中でも自然史的な研究をしており、若い時から文献を大切にしようしつけられた者には誠に驚くべきことである。

私の分野では新しい研究を進めるにしても、一つの問題について知見をまとめるにしても、まず現在までに積み重ねられた研究、報告・資料を充分に知っていなければならない。そのためには10年前はおろか、50年・100年前の文献でもその問題に関連するものはどんな些細な記事でも見落としまいと努力する。したがって私どもの仲間は文献をきわめて大切にあつかう。このことは日本の研究者に限らず外国でも同様であるらしい。私と同じような研究をしている者は、国の内外を問わず別刷の交換を行うのが慣例で、お互いに非常に助かっているのが実状である。これらの論文(別刷)は見ようと思えば国内で見ることのできるものが大部分であるが、ともかくそれが自分の手許にあって必要時にいつでも見られるということは研究上非常に便利であるし（これは写真プレイトなどが必要な私どもの研究の特異性とも関連があるし、掲載誌の所蔵機関などを探してコピーを依頼するような手間もはぶける）、またこれらの別刷の中には国内では見ることのできぬものも多いのである。こういうわけで私の研究生活30数年の間に、私の手許には数万部の別刷が集まっているが、苦労するのはその整理である。

別刷など文献整理の目的はある一つの問題を調べるときに、関連文献をなるべく落ちなく手早く引き出すことである。そのための整理法として考えられるのは、一つは著者別分類であり、一つは内容(項目)別分類である。著者別、内容別にそれぞれカードを作成しておけば利用上もっともよいことはわかっているが、現実にはこれは夢にひとしい。というのは正確に落ちなく内容を索引できるカードを作るとなると、一つの論文で数十枚のカードが必要となるようなものはざらである。私の生活時間の大部分をこれに投入してもまず不可能であるし、またできたとしてもカード作りのために一生を終わってしまうことになる。そういうわけで私はカードによる検索方法ははじめから放

棄して、別刷のしわけについては内容別を主体にし、それに部分的に著者別を併用するというやり方をとってきた。

一人の研究者が一つの問題に限って終始、論文や報告を出しているような場合は、どちらの分類法をとっても問題はないが、一人の研究者があれやこれやと多方面にわたって論文を書いているようなときに難しい問題がおこる。完全に著者別に分類しておけば、記憶には限度があるので、急いで何かを調べようとするような場合には多くの見落としができる。内容別のほうがはるかに見落としも少ないし、引き出す手間もかからない。内容別区分の場合にもっとも難しいのはどのように分類、区分のやりかたをきめるかということである。これがまずいとたしかに自分が所持している筈の別刷がどうしても引き出せないということがおこる。生物の分類関係のようなものは分類のグループ別に分ければよいので問題はほとんどないが、ある種の基礎的研究から応用面に及ぶような多方面の論文になると、その入れるべき区分に迷わざるをえない。応用の区分に入れれば基礎面の研究を見落すおそれがある。こういうものの分類にはその論文の中心となる内容や目的を判断して自分なりの分類をきめるほかに方法はない。どの区分にも入れにくい類似の論文を一括するのも一法である。そのほか特別に特徴のある仕事をしている著者のような場合には著者別に別刷をまとめておく。このほうが必要の場合に引き出しやすいからである。

あつかいの面でもう一つ問題になるのは内容別に分類した別刷などの文献の束の分量である。一束があまり大きくなりすぎると取扱いに不便であるし、出し入れに不必要な労力がある。それでとくに分量の多いような部門で内容がさらに細分できるような場合にはこれを数個の束に分け、著者別の分類を部分的にとり入れることもある。部分的にしても著者別であることは別刷の引き出しに都合がよい。それは多くの場合、ある問題について誰が研究したかという程度のことは記憶しているので早く引き出せるからである。

一例をあげれば日本産のゴミムシ科 (Carabidae) の分類については土生博士と上野博士の論文が圧倒的に多く、それ以外の数十名の研究者の論文の量は各人については多くない。全部を一束にするとかさばって扱いにくいので、私はこれを「Systematics of Japanese Carabidae (1) by Dr. Habu」「Systematics of Japanese Carabidae (2) by Dr. Ueno」「Systematics of Japanese Carabidae (3) by various authors」の三つの束に分けているが、この程度にすると適當の分量になって取扱いがやさしいし、一括している場合よりも別刷の引き出しが楽になる。

内容別、著者別のそれぞれの束には用紙のカバーをかけてひもでしばり、カバーの見える部分に上記したような内容を示す項目や著者名を記入しておく。

別刷を利用する研究者であれば、程度の差はあってもこれに近い方法がとられていて、とくに申し上げるほどのことではないかも知れないが、私自身、私有の文献の整理についてああでもないこうでもないとい迷いながら行きついたところがこんなところである。ご参考になる方もあろうかと一筆した次第、冗文で紙面を浪費したことをお詫びしたい。

(しろうず・たかし：教養部教授)

## ◆ 会 議

## 全国図書館大会（昭和48年度）

〈とき：昭和48年10月17～19日 ところ：高知市〉

“現代に躍動する図書館をつくろう”というテーマのもとに全国から約1,300名が参加して開かれたが、九大からは中央図書館の小野整理課長補佐が大学部会に参加した。

大学部会においては、まず、小泉部会長（一橋大学附属図書館長）が国公立大学図書館連絡懇談会等について報告し、次いで今井東京大学附属図書館長が国際連絡委員会の経過報告を行なったが、この中で第3回の日米大学図書館会議は、1975年10月末に京都において開催の予定であることが明らかにされた。

今年の大学部会の研究テーマは“図書館機械化の現状と将来——大学図書館の近代化に伴う相互協力、利用奉仕ならびに教育と研究に対する大学図書館の機械化について現状を把握し、将来の展望についてその問題点を研究する”となっているが、今年はこれに関係ある2題の講演が行なわれた。

- (1) 機械と人間——後藤以紀（明治大学教授）
- (2) 図書館と機械化——桜井宣隆（図書館短期大学教授）

桜井氏はアメリカおよび西ドイツの実情について詳しくふれたが、とくに西独においては図書館工学研究所を設立する等、国が図書館業務の機械化に非常に力を入れている実情が述べられた。

第2日目の報告は、すでにコンピューターを導入して機械化を実施している図書館の次の3氏から“図書館機械化の実際”について資料にもとずき詳細な説明が行なわれた。

- (A) 群馬大学附属図書館司書係長・柿沼良介
- (B) 大阪大学附属図書館閲覧課長・上島順二郎
- (C) 国立国会図書館司書監・小田泰正

大学側の2氏の報告から問題点を要約すれば、1.一部業務についての機械化のメリットは確かにあっても、その図書館全般から見た場合のメリット、省力化がどの程度のものかについては未だ結論は出せない。今後数年間の実績を分析して評価しなければならないこと。2.機械化実施までの経過については両大学で事情は少々異なるが、前提条件としては大体次のようなことがあげられる。

(1)訓練された要員の確保と機械化のメリットがあがるまでの2～3年間の人員増。(2)初期データを入力する作業の達成とその経費の捻出。(3)業務の集中化と標準化。(4)機械化に伴う会計関係帳票の変更についての経理部との意見調整。(5)図書館職員へのPR。(6)平年度経費の予算化。(7)学内関係者、利用者の理解と支持協力の必要。

国会図書館の小田氏は、主として、わが国の特性であり最も困難とされた漢字のコンピューターによる処理のシステム化に成功し、これにより今後業務が飛躍的に拡大発展することが期待されていることを強調した。

なお、明年度の大会は東京で開催される予定である。

## 九州地区国立大学図書館会計事務連絡会議

〈とき：昭和48年10月26日 ところ：九州大学附属図書館〉

一昨年来の外貨の変動に伴い、外国図書および雑誌の購入等に関する業務が最近特に繁雑となり、また、物管法に関連した多くの研究すべき問題もあって、各大学図書館の受入業務担当者はこれらの問題の処理に頭を悩ませているのが現状である。このため、かねてから標記会議の開催が望まれていたが、今年の九州地区国立大学図書館協議会で正式に決議されて実現したものである。今回は九大が当番館となり、各大学から実務担当者25名が参加して下記議題について終日熱心に討議を行ない多大の成果をあげることができた。

議題 1. 外国図書、雑誌の購入事務の合理化について 2. 図書の物管法上の取扱いについて

## 昭和48年度大学図書館長期研修に出席して

〈とき：昭和48年8月7～31日 ところ：図書館短期大学ほか〉

物心つく以前から、私は博多に住んでいる。博多の空の色もひと昔まえとはずいぶん変わったが、空の色はとたずねられれば、青だと、まだ答えることができる。それでも年1回だけ気象の関係で空が黄色になることがある。春さきになると中国大陸の黄砂がゼット気流に乗って九州に飛来するためである。東京の空はそんな色をしていた。東京での生活が始まってから9日間というものの陽の光を見ることができなかった。これが光化学スモッグであることをあとでニュースで知った。このような環境の中で1カ月過ごすのかと思っただけでも、じつのところうんざりしていた。それでも人間は環境に支配されやすい。生活にもだんだん慣れていった。ある日、強い日射して眼が覚めた。青空が窓から見えた。私達は水を得た魚のように学校へ急いだ。

主な講義内容は次の通りである。

1. 図書館業務の機械化（電子計算機の概要とその利用）
2. 図書館業務の機械化（図書館業務機械化のためのシステム設計）
3. 図書館業務への機械化の適用〈理論編〉（ハードウェア、ソフトウェア、処理形体）（ファイリング・システム）
4. 図書館業務の機械化（機械検索）
5. システム・アナリシスの考え方
6. インフォメーション・サービス
7. 情報活動の実際

人文・社会科学（会場・東大図書館）

理工学（会場・東大図書館）

医・生物科学（会場・慶応義塾大学図書館）

今回は特に、図書館業務の機械化に重点をおいたということであった。その関係が1カ月というものの電算機とシステム論で明け暮れた。また、期間中に富士通での電算機に関する講義と実習、群馬大学附属図書館、日本科学技術情報センターにおける電算機導入の実例等を見学できたことは意義深いものであった。その中にも特に関心した点として、富士通は企業体のせいか、教育から実習にかけての流れは実にすばらしく、プログラムの作成、電算機操作の実習は今でも忘れることができない。また、教育班のあり方についても、今後参考にするとところが多かった。

また一方、研修期間中に2回の共同討議を持つことができた。第1回目は「図書館業務の機械化について」活発なる意見の交換があったが、結果としては、電算機導入の方向に進むとしても、現状では人と予算の問題が第1のネックとして挙げられ、今後の大きな課題として残された。それにしても、数年後には各大学図書館にも電算機が導入され、それが活動する日も遠い日のことではないだろうと思われた。第2回目の共同討議のテーマは「大学図書館における相互協力について」であった。

内容は次の通りである。

### 1. 相互貸借

現在、この制度があっても円滑におこなわれていない様子で、今後の方向としてはまず、(学内図書相互利用書等を作成する)内部統一を計りながら漸次他大学との相互協力を促進させることが望ましいとの結論に達した。

### 2. 文献調査および文献複写

調査ミスが目立つため職員の研修が望まれる。文献複写については、今後、業者委託の方向を追求して行くことによって、日数の短縮化と労力の省力化が幾分なりとも可能となろう。

3. 最後に、今後の文献収集に関しては、諸問題が包含されており画一的にまとめることができないとしても、一つの方向としては、計画的にこれを行ない、重複購入等をさける。このためにも、各大学の内部調整を行なう一方、全国的に徹底させ、地域的収集——センター館——を確立させることによって多くの種類の文献を収集すべきではないかとの意見が出された。

最後に現在の大学図書館の運営と管理を考えると、長期研修を通して得た一つの方法として、今後はシステム・アナリシスの考え方をとり入れたプロジェクト・チームを組織して、これにあたらなければならないことを痛感した。なお、参加大学34校、参加人員34名、私は理工学系（参加人員6名）に参加した。

（中央図書館閲覧課参考掛長・朝倉 一）

## レファレンス・コーナー

## (その25)

## ——中央図書館情報資料掛——

中央図書館の情報資料掛(電・5310・5317)では、利用者の方々から寄せられてくるいろんな質問事項の調査を行なっていますが、ごく最近にあった質問のなかから幾つかを、ご参考のためにこへ挙げてみることにします。

**質問1** エジプトの現在の正式名称は何か。アラブ連合共和国ではいけないのか。内外の文献で確かめてほしい。

**回答例** Encyclopaedia Britannica. Book of the year 1972 (033/E58/1972) と世界年鑑 '73 (059.1/Se22/1973) で調査。アラブ連合共和国の成立は、1958年2月22日。1961年9月28日のシリア軍部クーデターにより、アラブ連合は事実上解消したが、エジプトは引き続き、アラブ連合共和国の名称を続けた。1971年9月1日、リビア、シリアと共に新しいアラブ共和国連邦を結成し、それを機会に、エジプトは国名をもとのエジプトにもどした。したがって、エジプトが国名として、United Arab Republic を用いたのは、1958年2月22日から1971年8月31日までで、現在の正式の国名は、Arab Republic of Egypt である。

**質問2** 郭沫若の現職を知りたい。なお、いまから10年ほど前に文化使節団として来日の際、母校九州大学医学部で講演をしたはずだが、その日はいつか。

**回答例** 「中国人脈要覧」(282.2/C62) 「現代中国人名辞典」(282.2/C34/1972) 「九大医報」 「各種新聞縮刷版」等で調査。郭沫若は、現在次の要職にある。中国共産党第9期中央委員会委員、中日友好協会名誉会長、全国人民代表大会常務委員会副委員長。昭和30年に日本学術会議の招きで来日、12月17日に九大医学部で講演を行った。なお「九大医報」第25巻・第3号が、郭沫若来日記念特集号となっているので、当日の模様を詳しく知ることができる。

**質問3** 日本人の平均寿命について、世界各国との比較を知りたい。

**回答例** 国民生活白書・昭和48年版 (365.5/Ko 48) で調査。日本をはじめ、世界の主な国の男女別の平均

寿命を知ることができる。そのほか死亡に関する国際比較など、寿命について各種統計があげてある。なお、社会保障統計年報'73 (364.05/Sh 12-1) などでも調査できる。

**質問4** 江戸幕府は直轄地に郡代や代官を置いて、その地を統治していたが、当時どんな支配地があったか。なお、その代官所の規模なども知りたい。

**回答例** 「江戸時代の制度事典」(大槻紫山著)(210.5/O61/1) という格好の事典がある。その付録に「郡代・代官表」というのがあって、詳しく知ることができる。職名・兼役・職俸役高・支配地・役所所在地・支配役人数・地役人等が表となって列記されている。

**質問5** 不動産鑑定士になるには、どうしたらよいか、

**回答例** 「国家試験資格試験全書」'73(317.4/Ko43-1) で調査。試験の性格、職務の内容、受験資格、試験科目、試験期日・試験地などを知ることができる。なお、同書には、現在わが国で実施されている国家試験の全容がわかりやすく述べてある。

**質問6** 海苔といえば浅草海苔ということになっているが、現在の東京の浅草からは、とうてい海苔のイメージは湧いてこない。いつ頃まで浅草で海苔が採れていたのか。浅草海苔の歴史について知りたい。

**回答例** 「海苔の歴史」(667.7/Mi 83/n) (農学部所蔵) で調査。浅草で海苔の採れていたのは、せいぜい天文年間(1532~54)までと推定されている。室町末期の永禄年代になると、隅田川下流の石原、厩橋付近でなければ採れなくなった。したがって、浅草海苔の名で有名になった江戸時代には、すでに浅草では海苔など採れてはいなかった。なお、同書は1,399ページにもおよぶ膨大なもので、海苔に関することが詳しく書かれている。

調査報告

夏休みの長期館外貸出結果報告（昭和48年度）

（中央図書館）

中央図書館（理・農学部図書資料は除く）では、7月3日から8月31日まで、夏休みの長期館外貸出を行なったが、その結果は下記の通りである。

| 学部<br>利用別 | 文  |     |    | 教 育 |    |    | 法  |     |    | 経 済 |    |    | 理  |     |    | 農  |    |    | 工  |     |    |
|-----------|----|-----|----|-----|----|----|----|-----|----|-----|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|-----|----|
|           | 人数 | 和書  | 洋書 | 人数  | 和書 | 洋書 | 人数 | 和書  | 洋書 | 人数  | 和書 | 洋書 | 人数 | 和書  | 洋書 | 人数 | 和書 | 洋書 | 人数 | 和書  | 洋書 |
| 計         | 97 | 141 | 2  | 11  | 20 | 0  | 67 | 100 | 4  | 42  | 61 | 0  | 84 | 121 | 2  | 50 | 72 | 3  | 71 | 101 | 2  |

| 学部<br>利用別 | 医  |    |    | 歯  |    |    | 薬  |    |    | 教 養 |    |    | 合 計 |     |    |
|-----------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|-----|-----|----|
|           | 人数 | 和書 | 洋書 | 人数 | 和書 | 洋書 | 人数 | 和書 | 洋書 | 人数  | 和書 | 洋書 | 人数  | 和書  | 洋書 |
| 計         | 4  | 4  | 0  | 0  | 0  | 0  | 1  | 1  | 0  | 11  | 15 | 3  | 438 | 636 | 16 |

（中央図書館閲覧課閲覧掛）

本学教官著作寄贈図書

〈中央図書館〉

- 柘 植 盛 男（工学部機械工学科教授）  
機械熱力学（柘植 盛男著）昭46 朝倉書店 ￥1,200
- 吉 竹 迪 夫（教養部教授）  
抒情英詩鈔（訳詩集）（吉竹 迪夫著）昭48 朝日出版社 ￥2,500
- 高 木 幸二郎（経済学部教授）  
再生産と産業循環（高木幸二郎教授還暦記念論文集）昭48 ミネルヴァ書房 非売品
- 佐々木 一 義（教養部教授）  
ハイデッガーの人間存在の哲学（佐々木一義著） 昭48 松柏社 ￥1,200

◆ 人 事 異 動

図書系職員の異動

48. 9. 11 藤 芳 一 （教養部分館閲覧掛） 医学部附属病院業務課へ  
" 吉 浦 貞 之 （教養部寮務掛） 教養部分館閲覧掛へ

日 録 48.8.21～9.20

- 8.25 中央図書館、理学部、農学部図書掛実務者連絡会開催。於小会議室。

9.2～8 昭和48年度国立学校地区別会計事務研修会。於国立阿蘇青年の家。関岡会計掛員出席。

9.3 図書館商議委員会小委員会（第6回）於小会議室。

" 第100回図書館商議委員会。於視聴覚室。

9.11 時間外開館開始。19時（土曜日 14時）まで。
- 10月18日までの間。

9.13 書庫内入庫者名簿廃止。

9.17 図書系職員語学研修会（フランス語初級）開始。12月12日まで、週2回。

9.20 第6回国立七大学附属図書館事務部課長会議。於札幌、石狩会館（北大当番）中村事務部長、菱輪整理課長出席。